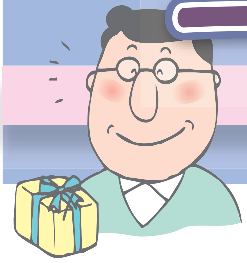
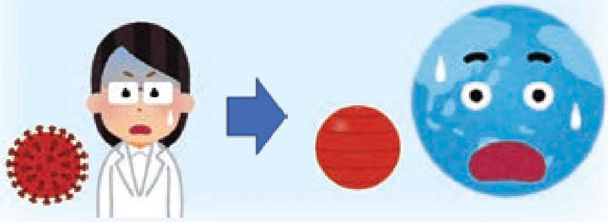
6
2020
三重病院
ニュースレター
news letter vol.250

01 新型コロナウイルスとアレルギー
02 臨床研究部からのお便り―第25回―
03 新入staff紹介コーナー
04 5病棟の生活のひとコマ㊽
やまばとギャラリー情報コーナー
通所支援事業のひとコマ／医療安全便り
05 異動のごあいさつ／退職のごあいさつ
たくさんのご支援に心より感謝します!
06 病院からのお願い
外来からのお知らせ／外来診察のご案内



新型コロナウイルスとアレルギー



新型コロナウイルス感染症が世界中に猛威を振るい始め、数か月がたちました。コロナウイルスは約0.1μmと極めて小さな粒子です。コロナウイルスと人のサイズの比は、ちょうどバランスボールと地球くらいの違いになるのですが、こんなに小さな粒子に正真正銘、地球全体が揺さぶられているのですね。

さて、この原稿は国内の新規感染者数が1日あたり100人を切る日が続き非常事態宣言が一部解除された折に執筆していますが、これから人出が増え、感染者が増加傾向に転じる懸念があります。引き続き手洗いやマスク、社会的距離の意識等の対策が必要だと考えます。

基礎疾患とコロナウイルス感染症

心臓病や糖尿病などの基礎疾患がある方は、コロナウイルス感染症の重症化するリスクであることが分かっています。

アレルギー領域では、気管支ぜん息が重症化に関与するか？という疑問がありますし、実際に外来でも多くの患者さん・ご家族からご質問を受けます。現時点では「新型コロナウイルス感染症で重症となり入院した方でぜん息患者は少ない」「気管支ぜん息がコロナウイルス感染症の重症化につながるリスクとならない」など、国際的な学術論文で報告があるので、「ぜん息があるのでコロナウイルスのみを過剰に怖がる」必要はなさそうです。

日頃のコントロール

しかし、気管支ぜん息のコントロール状態が悪いと、コロナウイルスに限らず感染症によってぜん息の調子が悪化する事がわかっていますし、強い発作を起こすこともあります。日ごろから定期治療をしっかり継続していく必要があります。

「特定の吸入ステロイド薬がコロナウイルスの治療に有効ではないか」というニュースがありましたが、現時点では優先度の高い治療とはされておらず、コロナウイルスを心配して吸入ステロイドの種類を変更する事は正しくない、少なくともそのせいでもともと定期薬として使用している患者さんへ行き渡らなくなることは避けるべき状況です。

また、「休校・休園に伴い、自宅でのセルフケアをする時間が十分にとれるため、最近はアトピー性皮膚炎やアレルギー性鼻炎の調子がよい」という声をしばしば聴きます。そのような方は、ぜひ今のケアを長期的に継続してほしいと思います。

三重病院アレルギー科の感染対策

少しでも患者さんたちが安心して受診や入院ができるように、各種取り組みを行っています。外来受診の際に感染症に関する状況をお伺いする事や待つ場所の案内をさせて頂き、予定入院の方には事前に接触状況を確認するなどを行っております。

最後に

私事ですが、アレルギー拠点病院である当院に修練を求め札幌から単身赴任で三重に来ております。県知事からの県外移動自粛要請と、病院職員という職業意識として、私や多くの仲間が自宅や実家に帰らない生活が数か月続いています。「自分たちも感染しない・感染させない」意識を強く持ち、特に感染管理や検査に携わる職員は誠心誠意対策に取り組んでおります。引き続き当院へのご理解をよろしくお願いいたします。

（アレルギー科　野上　和剛）